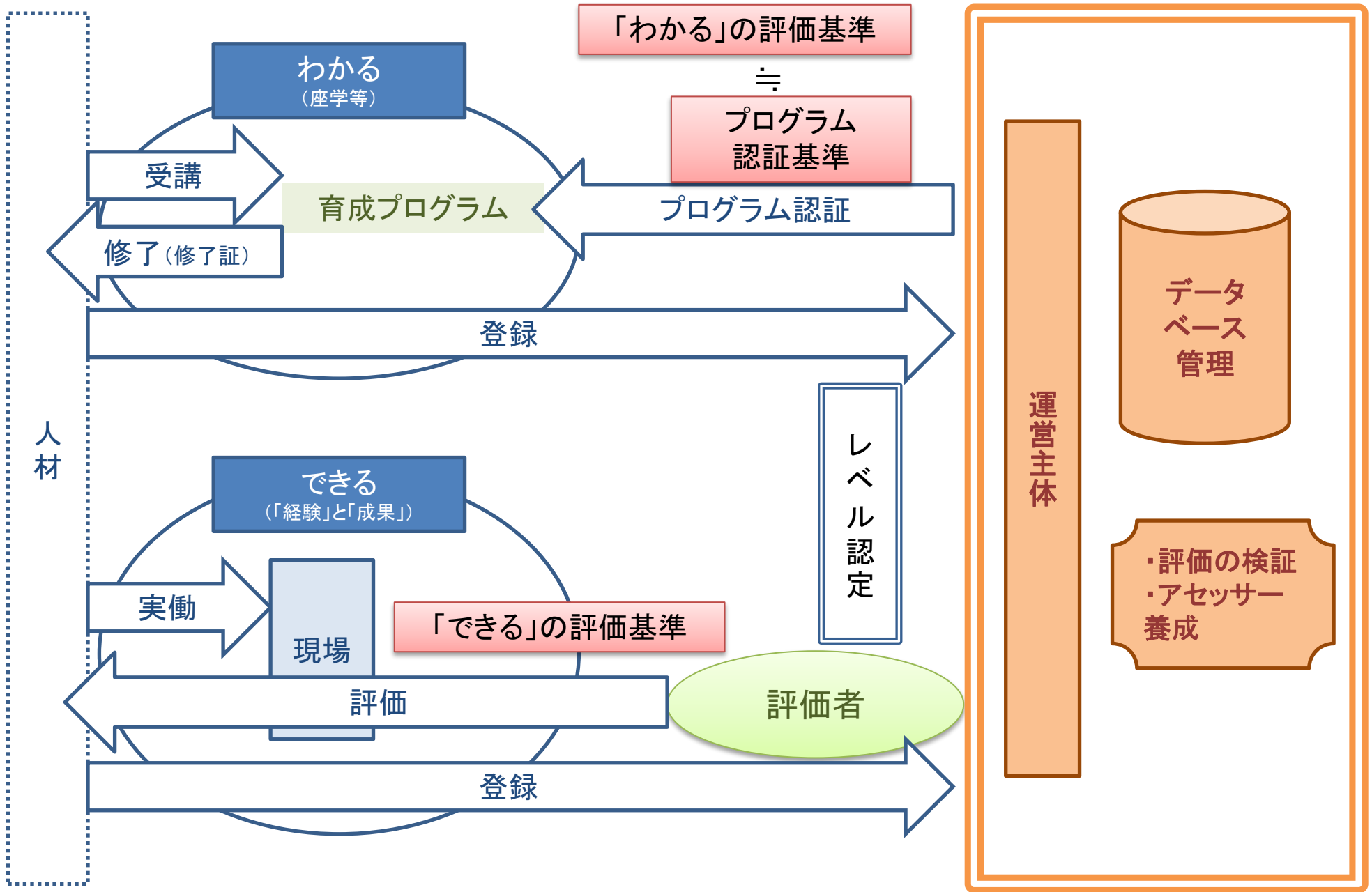


# レベル認定申請者に対する評価の仕組み



# プログラム認証基準の概要(「わかる」の評価)

分野	レベル1	レベル2	レベル3
6次産業化の 関連法規・諸制度	6次産業化の意義・役割	6次産業化法、農商工 連携法、関連支援施策 の概要	<コンサルタント等> 関連支援施策の利活用 の方法
経営・ビジネス プランニング	食品の生産・加工・販 売に関する経営の基 礎	食品の生産・加工・販売に 関する収支計算の基礎	食品の生産・加工・販 売に関する経営戦略、 経営管理
		食品の生産・加工・販売に 関する経営計画の基礎	
		6次産業化に関する事 業マネジメントの基礎	6次産業化に関する事業 マネジメント能力の開発
		<コンサルタント等> 経営分析 財務会計・資金計画 6次産業化に関するビジ ネス計画書の作成(初 級)	<プレイヤー> 6次産業化に関するビジネ ス計画書の作成(初級)  <コンサルタント等> 6次産業化に関するビジネ ス計画書の作成(上級)
食品安全・ 衛生管理	食品安全・衛生管理の 基礎	食品安全・衛生管理の 応用	—
食品の生産・加 工・流通共通	食品の生産・加工・流 通の基礎	食品の生産・加工・流通 関連法規の概要	—
生産(農林水産業)		生産の応用	—
食品加工		食品加工の手法	—
食品流通 マーケティング		マーケティング・ブラン ディングの基礎と手法	<プレイヤー> 商品開発 マーケティング戦略 ブランド戦略 販売戦略  <コンサルタント等> 商品開発等の戦略分析

食の6次産業化の  
基盤となる共通分野

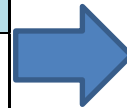
食の6次産業化の  
各プロセスにおける  
専門分野

受講・修了  
➔

「わかる」のレベル認定  
申請者が修了したプログラムの  
レベルに相当するレベルを  
認定

# 事業実績の評価表(「できる」の評価)

評価項目	評価指標(配点)		
	A(10点)	B(5点)	C(0点)
<b>①売上・収益(20点)</b>			
・売上高伸び率(※)	前年比10%以上増加	前年維持	前年比減少
・収益性(※)	黒字	黒字ではないが前年比上昇	前年比低下
<b>②商品・サービスの開発(20点)</b>			
・商品化	商品やサービスのブランド化・差別化等に取り組んでいる。 (例)・商品のコンセプトやストーリーを明確にしている。 ・地域の農林水産物を活用するなど原材料に特徴がある。 ・生産・加工・販売方法に特徴がある。 ・顧客のターゲットが明確である。 ・販売ルートやプロモーションの方法を工夫している。	ブランド化・差別化までは至っていないが、 ・自ら最終商品を作っている。 または ・原料供給のみだが商品開発に関わっている。	商品化に取り組んでいない。
・多角化	・複数件の商品・サービスを展開している。 ・生産・加工・販売にとどまらず飲食、体験、観光等のサービスまで展開している。	1件以上の商品・サービスを展開している。	多角化に取り組んでいない。
<b>③販路開拓・プロモーション(20点)</b>			
・新規販路の開拓・拡充	都市圏や他地域への商品・サービスの提供や誘客など域外需要の掘り起こしを行っている。	地域内のマーケットにおいて、商品・サービスの提供や誘客などに取り組んでいる。	新規販路の開拓・拡充に取り組んでいない。
・メディア等への情報発信	雑誌や新聞等のメディアを活用している。	自社HP等による情報発信に取り組んでいる。	情報発信に取り組んでいない。
<b>④連携・コーディネート(20点)</b>			
・生産・加工・流通の連携や一体化、異業種との連携	・生産・加工・流通の各事業者との連携体制を構築している、又は生産・加工・流通を自ら一体的に行っている。 ・地域内の異業種や行政機関等との連携体制を構築している。	・生産者、加工業者、販売先等との直接取引を行っている。 ・地域等のネットワークを活用している。	生産・加工・流通の連携や一体化、異業種との連携を行っていない。
・地域活性化への貢献	・地域の知名度アップや訪問者数の増加に貢献している。 ・地域課題の解決に取り組んでいる。	地域の農林水産物や未利用資源の有効活用に取り組んでいる。	地域活性化に貢献していない。
<b>⑤その他のアピールポイント(20点)</b>			
・雇用創出	複数名を雇用	1名雇用	雇用なし
・その他のアピールポイント	<アピールポイントを人材ごとに評価> (例)未利用地(耕作放棄地)の利用、環境配慮の取組(リサイクル、省エネ)、新規開発投資、ISO9000シリーズへの取組(品質管理)、ISO14000シリーズへの取組(環境)、JGAPへの取組、地域課題の解決)		

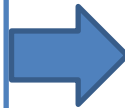


アピールポイントを評価

申請者の食の6次産業化の事業実績について、

- ① 売上・収益
- ② 商品・サービスの開発
- ③ 販路開拓・プロモーション
- ④ 連携・コーディネート
- ⑤ その他のアピールポイント

の5つの項目により、評価者が**加点方式で評価**  
(=アピールポイントを評価)



「できる」  
レベル認定

※ 申請の前年の実績を原則とするが、被災や景気の悪化など特別の事情が認められる場合は、過去の3年間程度の実績を考慮する。

# 実証事業の実施について

## <スケジュール>

- 11月末 委託先を公募・決定
- 12月～3月まで 事業実施
- 3月末 事業結果に基づく基準の見直し

内閣府

委託先(※)

選定

選定

：委託先が実施すること

(※)内閣府において一般競争入札・総合評価方式により選定

(※※)これまでに6次産業化の人材育成の講義を行い、卒業生を出している教育機関・研修主体を複数選定

(※※※)レベル2・3相当の既存のプログラムを既に履修した者を、①事業主(1～3次産業者)、②法人スタッフ、③コンサルタント・アドバイザー等の区分ごとに、複数名選定

対象機関  
(※※)

A校

B法人

C社

⋮

既存の  
育成プログラム

卒業生(※※※)

プロレベルの人材

(有)伊豆沼農産 代表取締役  
小岩井農牧(株) 特別常任顧問  
(有)木之内農園 会長  
(有)山口農園 代表取締役社長  
(有)ストロベリーフィールズ 代表  
ヤエガキフード&システム(株) 専務取締役  
(有)漂流岡山 代表取締役社長  
(株)ファーマーズ・フォレスト 代表取締役社長  
(株)産直新聞社 代表取締役・編集長

伊藤 秀雄 氏  
野澤 日出夫 氏  
木之内 均 氏  
山口 武 氏  
遠藤 健二 氏  
佐伯 秀郎 氏  
阿部 憲三 氏  
松本 謙 氏  
毛賀澤 明宏 氏

## ①プログラム認証基準案の検証

○既存のプログラムをプログラム認証基準案に基づきマッピング  
(「分野」ごとに整理・分類)

↓  
プログラム認証基準案の妥当性を検証

## ②「できる」の評価基準案の検証

○「できる」の評価基準の項目案  
(例:経験年数・商品数・取引先数・顧客数・売上高・収益・雇用者数等)に基づき、卒業生等の経験・実績を分析

↓  
・「できる」の評価基準案の項目の妥当性を検証  
・各項目の評価指標案を作成

## ③プロからのヒアリング

○6次産業化のプロから知識・実績をどのように積み重ねたかをヒアリング

↓  
プログラム認証基準案・評価基準案の妥当性を検証

事業結果を踏まえて小委員会において基準を具体化し、WGで承認